

助成者	飯塚 宜子	活動期間	2017年4月～2020年8月
所属機関	NPO法人平和環境もやいネット	職名	理事

スクールガーデンで学ぶパーマカルチャー：東ティモールの環境保全型農業の推進

【活動場所】 東ティモール マナウト県ベアデ（1年目）、アイナロ県マウベシ（2年目）、コバ・リマ地区スアイ（3年目）

【事業目的】 アジア貧困国の一つである東ティモールにおいて、近年全土の初等・中等教育課程の学校において児童への食糧補完を目的にスクール・ガーデンが設けられ始めている。本活動は、このスクール・ガーデンを活用し、地域の水や土を保全する農業の重要性を次世代の児童が学ぶ教育プロセスを構築することを目的とする。具体的には、現地で年1回開催されるパーマキッズキャンプ（地域の伝統文化や知識および自然のエコシステムに基づく持続可能な農業を教える教育イベント）の開催支援・協力を行うことによりそのプロセスを共有し、最終的には教材を開発する。



パーマユースキャンプのサイト

【活動内容】

- ①キャンプ開催打合せ：現地協力者エゴ・レモス氏との協議。1年目はレモス氏が来日し、日本の学校菜園教育状況を視察（多摩市の愛和小学校）
- ②Perma kids Camp開催：1年目は主に小中学生を対象として4日間ベアデで開催し231名参加、3年目は主に小学生を対象として5日間スアイで開催し477名参加。
- ③Perma youth Camp開催：パーマカルチャーを次世代へ繋ぐ人材の育成を目的に2年目は17～35歳の若者を対象としてマウベシで開催し600名参加。
- ④教育映像の作成：2年目、3年目のキャンプの様子映像をもとに動画作品にした。

【活動成果】

パーマキャンプでは、植林、水源の整備、有機肥料づくり、苗づくりなどを通じて、地球環境の保全と、人間の人権、動植物などいのちの尊重は、全て繋がっていることを子どもたちへ教えていた。パーマカルチャーによる学校農園は、人間が健康な食物を食べて生きる「食の主権」の実践であり、経済利潤優先により消費者の健康や地球環境を犠牲にする力への抵抗でもあり、人権の復興である。今回の活動により東ティモールから多くの学びを得ることができた。完成した映像は教育教材として広く活用されることが期待できる。



トウモロコシの粒を砕く競争